

「公共施設のあり方検討委員会」答申後の取り組み状況等について

群馬県立土屋文明記念文学館

1 施設の必要性について

土屋文明記念文学館は、本県の文学に関する中心施設として、県民に対して様々な情報を提供するとともに、貴重な資料の収集に努めており、その設置目的は今日においても失われていないと考える。施設の今後のあり方としては、継続することが適当であるが、入館者数はピーク時から半減し、観覧者数で見ると、年間1万人に達していない現状である。

本施設は、その館名から、個人文学館のイメージが強いが、実態は総合的な文学館であり、その機能を高め、また、利用者の増加を図るため、館名変更を含めて、文学館のあり方について専門的視点及び県民の視点から検討する必要があると考える。

(答申後3年間の取り組み状況)

◇県文学の中心としての役割の発揮

- ・土屋文明記念文学館は、本県の文学に関する中心的な施設として、その存在意義を示し、県民文化の向上に寄与する施設であるべく努力を継続している。

◇専門的視点からの検討 → 「文学館アドバイザー」の設置

- ・平成23年度は、文学の専門家を「文学館アドバイザー」に委嘱し、文学館の展示のあり方や運営等について専門的な視点から意見を聞いた。

◇県民の視点からの検討 → 「県民の意見を聞く会」の設置

- ・文学館機能をより発揮させる観点から、現状を分析し、今後の施設の役割や運営について県民から幅広い意見を聞くため、平成22年度に「県民の意見を聞く会」を設置・運営した。

結 果

◇入館者数の増加

- ・入館者数は、平成19年度に2万人を割り込み開館以来最低となったが、その後は増加傾向にあり、平成22年度は2万8千人超、平成23年度は3万3千人超となっており、平成24年度も3万人超となった（1月末現在）。

・入館者数の推移

年 度	平成24年度	23年度	22年度	21年度	備 考
入館者数 (前年度比)	※30,193人	33,840人 (+17.7%)	28,744人 (+27.1%)	22,624人	※H24年度は 1月末現在

◇文学館アドバイザーからの提言

- ・平成23年度に、文学の専門家（3名）を「文学館アドバイザー」に委嘱して、文学

館の展示のあり方や運営等について提言を受けた。常設展示については、定期的な展示替えが必要なこと、企画展示については、「群馬ゆかり」と「全国」・「現代」を結びつけた展示、文学のジャンルを超えた展示企画などの提言があった。

- ・平成24年度は、新館長のもと、「文学館アドバイザー」の提言等を踏まえて、予算や事業に反映させるとともに、開館20周年（平成28年度）に向けて、文学館の果たすべき役割、展示、資料保管等のあり方等について検討を行った。

◇「県民の意見を聞く会」からの提言

- ・平成22年度に「県民の意見を聞く会」を4回開催して提言を受けた。
- ・提言では、文学館のあり方については、本県文学の中心施設としての役割を果たせるよう運営すべきとの内容であった。
- ・また、館名変更については、中長期的な視点で慎重に検討すべきとの提言であり、土屋文明の名前を使用しないという意見は皆無であった。

2 管理運営方法について

①本施設に対して県民が求めるサービスを再検討し、施設の位置付けを明確にした上で、提供するサービスについて重点化していく必要がある。

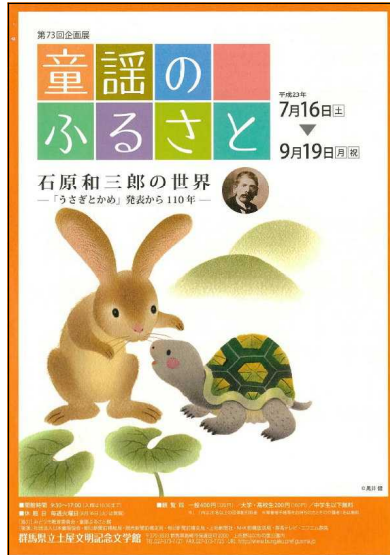
(答申後3年間の取り組み状況)

◇企画展示

- ・企画展示の5カ年計画を策定し、予算額にメリハリをつけた企画展を計画した。
 <企画展のメリハリ>
 夏の企画展(夏休み期間中)・・・規模の大きなもの
 春と秋の企画展・・・・・・・・・・夏に次ぐ規模のもの
 冬の企画展・・・・・・・・・・当館所蔵品を活用したもの
- ・群馬県ゆかりの文学を中心に様々なジャンルの文学について、年4回程度の企画展を開催した。

・取組期間中の企画展開催状況

展 覧 会 名	会 期
水上勉の世界 一癒し・温もり・鎮魂の文学一	H22. 4.24 (土) ~ 6.20 (日)
茨木のり子展 ~わたしが一番きれいだったとき~	H22. 7.17 (土) ~ 9.20 (月・祝)
土屋文明生誕120年記念 文明と茂吉	H22.10. 9 (土) ~12.12 (日)
ぐんまの雑誌展 (特集展示)	H23. 1.15 (土) ~ 3.13 (日)
『智恵子抄』という詩集	H23. 4.23 (土) ~ 6.19 (日)
童謡のふるさと 石原和三郎の世界	H23. 7.16 (土) ~ 9.19 (月・祝)
夭折の詩人 長澤延子・中沢清展	H23.10. 8 (土) ~12. 4 (日)
加藤楸邨と「寒雷」一平井照敏コレクションとともに一	H24. 1.21 (土) ~ 3.18 (日)
無頼の先へ 一坂口安吾 魂の軌跡一	H24. 4.21 (土) ~ 6.17 (日)
追悼・どくとるマンボウ北杜夫 一昆虫と躁うつと文学と一	H24. 7.14 (土) ~ 9.17 (月・祝)
忘れた秋 一おもいでは永遠に ^{とわ} 岸田衿子展一	H24.10. 6 (土) ~12. 2 (日)
伊藤信吉没後10年記念展 ~風の詩人に会いに来ませんか~	H25. 1.19 (土) ~ 3.17 (日)



取組期間中に開催した夏の企画展

◇移動展

- ・文学館から遠い地域に在住されている県民の方々に対するサービス向上と、県文学の中心施設としての役割（地域の文化施設の支援）を果たすため、県内の文学館・資料館等で移動展を開催した。平成23年度から、図書館、学校、病院などの施設でも簡単に展示できるよう工夫した。



企画展(ギャラリートークの様子)



移動展

◇教育普及事業

- ・企画展関連の講演会、ワークショップ、文学講座、「小学生の短歌教室」・「小学生の短歌教室スペシャル」・「小学生の短歌展」などの学校連携事業、夏休み子ども向けイベント、自主学習会など、県民の文学への理解を深めるための事業を実施した。



館長講座



「小学生の短歌教室スペシャル」



「小学生の短歌教室」副読本



「なつやすみ おはなしのへや」

結果

◇企画展示

- ・平成23年度の観覧者数は、前年度から減少して1万人を割り込んだが、これは平成23年3月に発生した東日本大震災の影響があったと考えられる。しかし、移動展、企画展関連イベントなど各種教育普及事業に積極的に取り組んだ結果、全体の入館者数は増加した。平成24年度の観覧者数は、1月末現在で11,747人であり、平成22年度及び23年度を上回っている。

・観覧者数の推移

年度	平成24年度	23年度	22年度	備考
観覧者数 (前年度比)	※11,747人	9,933人 (△15.1%)	11,432人 (△0.6%)	※H24年度は1月末現在

◇教育普及事業

・参加者数の推移

年度	平成24年度	23年度	22年度	備考
参加者数 (前年度比)	※13,732人	18,924人 (+50.5%)	12,574人 (+70.1%)	※H24年度は1月末現在

◇移動展

・参加者数の推移

年 度	平成24年度	23年度	22年度	備 考
参 加 者 数 (前年度比)	※ 8施設 6,747人	19施設 12,039人 (+78.6%)	5施設 6,739人 (+188%)	※H24年度は1月末現在

(注) 移動展は教育普及事業の参加者数に含む。

・数値目標と実績の推移

項 目	区分	平成24年度	23年度	22年度
文学の教室参加者数 (連続講座「群馬の文学を読み解く」)	目標	450人	300人	200人
	実績	【達成】 862人	285人	135人
小学生の詩作(短歌)教室実施校	目標	9校	8校	7校
	実績	【達成】 15校	12校	7校
学校団体の受入校数	目標	10校(600人)	7校(420人)	5校(300人)
	実績	【達成】 12校(673人)	8校(463人)	5校(250人)
夏休みの紙芝居・読み聞かせ及び 夏休みミニシアターの観覧者	目標	1,000人	900人	800人
	実績	【達成】 1,412人	1,111人	803人

※ 平成24年度は1月末現在の実績

②職員体制（嘱託を含む）について、入館者数や業務内容を踏まえた分析・見直しを行う必要がある。その際には、ボランティアの積極的な活用も検討されたい。

(答申後3年間の取り組み状況)

◇職員体制の見直し

- ・職員体制を見直し、嘱託職員を1名削減することにより、人件費の圧縮を図った。
(H22年4月)

◇ボランティアの積極的な活用

- ・平成23年度に、ボランティア連絡会議を開催するなどして、ボランティアとの意見交換に努めるとともに今後の活動内容等について協議した。
- ・平成24年度からは、「なつやすみ おはなしのへや」イベントのボランティアを、文学館のボランティアとして登録し、ボランティア保険へ加入するなど安全対策向上に努めるとともに、年間を通じた活動ができるよう改めた。
- ・また、「おはなしのへや」ボランティアの活動について、夏休み期間に加えて「群馬県民の日」や企画展ワークショップで実演するなど充実を図った。



群馬県民の日イベント
「今日は一日 おはなしのへや」

結 果

・ 文学館の嘱託職員の削減（平成22年4月）

区 分	削減前	削減後	備 考
嘱 託 数	9人	8人（△1人）	館長は嘱託職員

・ ボランティア登録者数の推移

年 度	平成24年度	23年度	22年度
登録者数	※ 226人（+117人）	109人（+7人）	102人

※ 平成24年度は1月末現在の登録者数

3 管理運営主体について

①歴史公園内に位置しており、公園全体としての機能を発揮させる観点から、施設相互の連携方法等について、高崎市とよく話し合いをする必要がある。

（答申後3年間の取り組み状況）

◇高崎市との連携

・ 歴史公園内の高崎市立「かみつけの里博物館」や高崎市群馬支所を通じて、相互の連携方法等について高崎市と協議した。

◇近隣文化施設との連携

・ 平成22年度から、近隣の「かみつけの里博物館」と県立「日本絹の里」との三館連携に取り組んだ。

◇歴史公園内のイベント参加

・ 平成23年度から歴史公園内のイベントに参加して地域との交流を図った。



三館スタンプラリー(台紙)



ぐんま「はにわの里」夏まつり

結 果

◇高崎市との連携強化

・ 歴史公園を管理する高崎市群馬支所と協議し、公園内の清掃・除草等の管理運営を充実（不定期から日常的な管理運営へ）することができた。

◇近隣文化施設との連携

- ・平成23年度に、高崎北部三館連携協議会を設置した。
- ・平成24年度に、協議会開催（年3回）、三館共通イベントカレンダー作成・配布（上期・下期）、三館スタンプラリー（7～9月）、相互見学会（年5回）、ワークショップにおけるノウハウの相互利用などを実施した。

・三館スタンプラリー（7月中旬～9月末）

年 度	平成24年度	23年度	備 考
参加者数 （前年度比）	779人 （+63.3%）	477人	※参加者数は三館全てを観覧した人数

◇歴史公園内のイベント参加

- ・平成24年度は、ぐんま「はにわの里」夏まつり（8月12日）、かみつけの里古墳祭り（10月20日）に参加した。

・ぐんま「はにわの里」夏まつり

年 度	平成24年度	23年度	備 考
参加者数	246人	—	23年度は大雨のため中止

②県直営による管理運営が適当であると考えているが、民間のノウハウを活用する観点から、指定管理者制度について、他県での導入、活用状況など、情報収集に努められたい。

（答申後3年間の取り組み状況）

- ・指定管理者制度について、他県での導入・活用状況について、全国文学館協議会や個別調査等により情報収集に努めた。

結 果

・全国の都道府県立文学館における指定管理者制度の導入状況（H25年1月現在）

施 設 区 分	施設数	備 考（選定方法等）
直営施設	6	
指定管理者制度導入施設	7	
全業務導入施設	5	公募2、非公募3
一部業務導入施設 ※	2	公募2
計	13	

※ 一部業務とは、学芸業務を除く管理運営業務である。

- ・全国の都道府県立文学館のうち指定管理者制度を導入している施設は、13施設のうち7施設である。
- ・うち全業務導入の5施設は、前から財団等に管理委託していたが、平成15年の地方自治法改正による指定管理者制度の創設に伴い移行したものである。
- ・資料収集・保管、調査研究、展示等の学芸業務は、専門知識と経験が必要であり、施設として長期的な取組が欠かせないことから、5施設のうち4施設は県から学芸部門

の職員を派遣している。

- ・ 5施設より後に当該制度を導入した2施設は、管理運営業務のみについて導入し、学芸業務は直営としている。
- ・ 当該制度を導入する場合は、施設の設置目的を効果的に達成できるかどうか、特に学芸業務の扱いをどうするかなど、メリット・デメリットを含め慎重に検討する必要がある。